

「頭金0円」、しかも「登録時諸費用」や乗っている間の「車検基本料」、「自動車税」、「自賠責保険料」、「自動車重量税」すべてが月々税込み1万円に含まれています。
さらに、車を返却する必要もありません。

「私は、一日300円で

車を買いました。」



カーコンビニ倶楽部 〒108-0075 東京都港区港南2-11-19 大滝ビル
☎0120-0120-55 <http://www.carcon.co.jp>

二年ほど前、少年サッカーのイベントのためにスペインを訪れた帰りにパリに寄った。その目的は当時、法律的にも一番進んでいる電気自動車（EV）の普及を視察しようと思ったからだ。まず目を見張ったのは、まるで日本のパーキングメーターのような電気自動車の充電スポットがあったことだ。この充電スポットは何とパリ市内に4000カ所あるという。立ち寄ってしばらく見ていると、走っている市バスも全てが電気自動車。車の側面には100%電気バスと書いてあり、ノーガソリンである。一台の車がやっけてきて、06と書いた充電ポストから充電を始めた。話を聞いてみるとAUTOLIB（オートリブ）と言われるレンタカーで、この会社は電気自動車を拡大しているようで、4000台以上保有していた。まさに電気自動車の町が出現していた。ご存知の通り、フランスは2040年までにガソリンとディーゼル車の販売の禁止を決めており、イギリスとドイツはほぼ同じようなことになるのであろう。

電気自動車の押し寄せる波は恐ろしい勢いでアメリカでも始まっている。カリフォルニアを中心とした一部の州では、「ZEV規制」という制度を施行している。ZEVとは「Zero Emission Vehicle」のことで排出ガスを出さない自動車のことである。一定の割合以上販売することを義務付ける、というものだ。そして、この割合は毎年引き上げられて行くことになる。

さらには世界最大の自動車市場と言われる中国でも、2019年から電気自動車をはじめとする新エネルギー車について、一定の割合以上の生産・販売を義務づける規制を導入すると発表した。ガソリン車やディーゼル車で今更日本やヨーロッパと戦っても分が悪いので、おそろしくこの巨大な国の自動車メーカーは圧倒的な技術開発で電気自動車を作り、しかも相当の低価

格で販売をするのであろう。メルセデスが2022年全車種を電気化、ゼネラルモーターズは2023年までに20車種をEVと燃料電池車に、フォルクスワーゲンは2025年までに80車種の電動車を販売する、とそれぞれ発表している。東京オリンピックが終わった頃からおそらく10年ほどで電気自動車は我々の常識となるのは間違いない。10月発表となった日産自動車の新型のリーフは1回の充電で400キロ走る。こうなると、生活する上で問題であった充電と走行距離はカバーできるのは間違いない。ゴルフや旅行など遠出もクリアできる。

電気自動車は一般的にパーツがかなり少なくなると思われる。例えば廃棄のパーツは確かに少なくなる。一方で変速機関係のパーツは当初組み込まれていなかったのだが、電気自動車の変速パーツを入れることで燃費を大きく改善し、加速につながるわがわがわがわがわが。今年、電気自動車の日本のレースにおいて、この変速機を搭載した車が優勝。世界中の電気自動車の技術者が目を見張った。このように電気自動車と言ってもまだ開発途上にあるのは明らかで、未だほとんど実証実験がなされていない。

今世紀は簡単に言えばEVシフトの世紀と言える。100年に一度の大きなチャンスが目の前にある。この時代はかなり大きなチャンスがあると考えている。



林 成治 Seiji Hayashi
出身:北海道 青山学院大学経営学部卒業
1981年4月:プロミス株式会社入社
2008年4月:同社執行役員就任
2008年8月:カーコンビニ倶楽部株式会社 常務取締役就任
2008年10月:同社代表取締役就任
2009年8月:バル債権回収株式会社 常務取締役就任
2010年4月:株式会社Do フィナンシャルサービス取締役就任
2011年1月:同社取締役退任
2011年1月:カーコンビニ倶楽部株式会社 代表取締役就任